

冬の感染症にご注意

ノロウイルス感染症

ノロウイルス感染症ってどんな症状？

ノロウイルスは乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層に感染性胃腸炎を起こすウイルスです。ワクチンはなく治療は対処療法に限られる感染症です。吐き気・嘔吐・下痢・腹痛・発熱などの症状が出ます。症状が1〜2日続いた後回復しますが、症状がなくなっても、長期間体内にウイルスが残る場合があります。

どうやってうつるの？

カキなどの二枚貝を加熱不足で食べることに
よる感染の他、感染者の手指から食品を介
して感染したり、糞便や嘔吐物処理での飛沫
感染などが挙げられています。

ノロウイルス感染症にかかったらどう
すればいいの？

体力が弱い乳幼児や高齢者は、脱水症状を
起こしたり体力を消耗したりしないよう、水
分と栄養の補給を充分に行いましょう。脱水
症状がひどい場合には、病院で輸液を行うな
どの治療が必要です。

ノロウイルス感染症の予防法

◎加熱が大事

しっかり加熱すればウイルスは死滅します。
カキなどの二枚貝は85〜90℃以上で90秒以上
の加熱で死滅します。生や半生で食べる食品は
リスクが高まりますので注意が必要です。また
加熱できない生野菜はしっかり洗いましょう。

◎手洗いが基本

手洗いのタイミングは①トイレの後②調
理・食事の前③外出から戻った時④排泄物の
処理後です。ノロウイルスをしっかりと洗い流
すことがポイントです。
※アルコール消毒では効果はありません。

嘔吐物処理を確実にしましょう



①手袋・マスクを着用し、
布やペーパータオル等で外
側から内側に向けてぬぐい
取ります。



③汚物が付着した床とその
周囲を0.1%次亜塩素ナトリ
ウムをしみこませた布で覆
うか浸すように拭きます。



②使用した布やペーパー
タオル等はすぐにビニール
袋に入れ処分します



④処理後、手袋を外して
手洗いをします

©Greenhouse

すずかけふれあい祭への
ご来場ありがとうございました

平成27年11月1日第3回ふれあい祭は秋晴
れでの開催となり、約650人の方にご来場
いただきました。江西中学吹奏楽部の感動的
な演奏会や地元農家の新鮮野菜の販売、健康
診断や当院医師の講演会など、大盛況のう
ちに閉幕することが出来ました。お越しいた
だいた皆様にご来場をありがとうございました。
の収益金は中日新聞を通じて寄付させてい
たきました。



「生きがいと健康づくりイメージキャラクター「ちゃっぴー」」 ©静岡県

編集後記

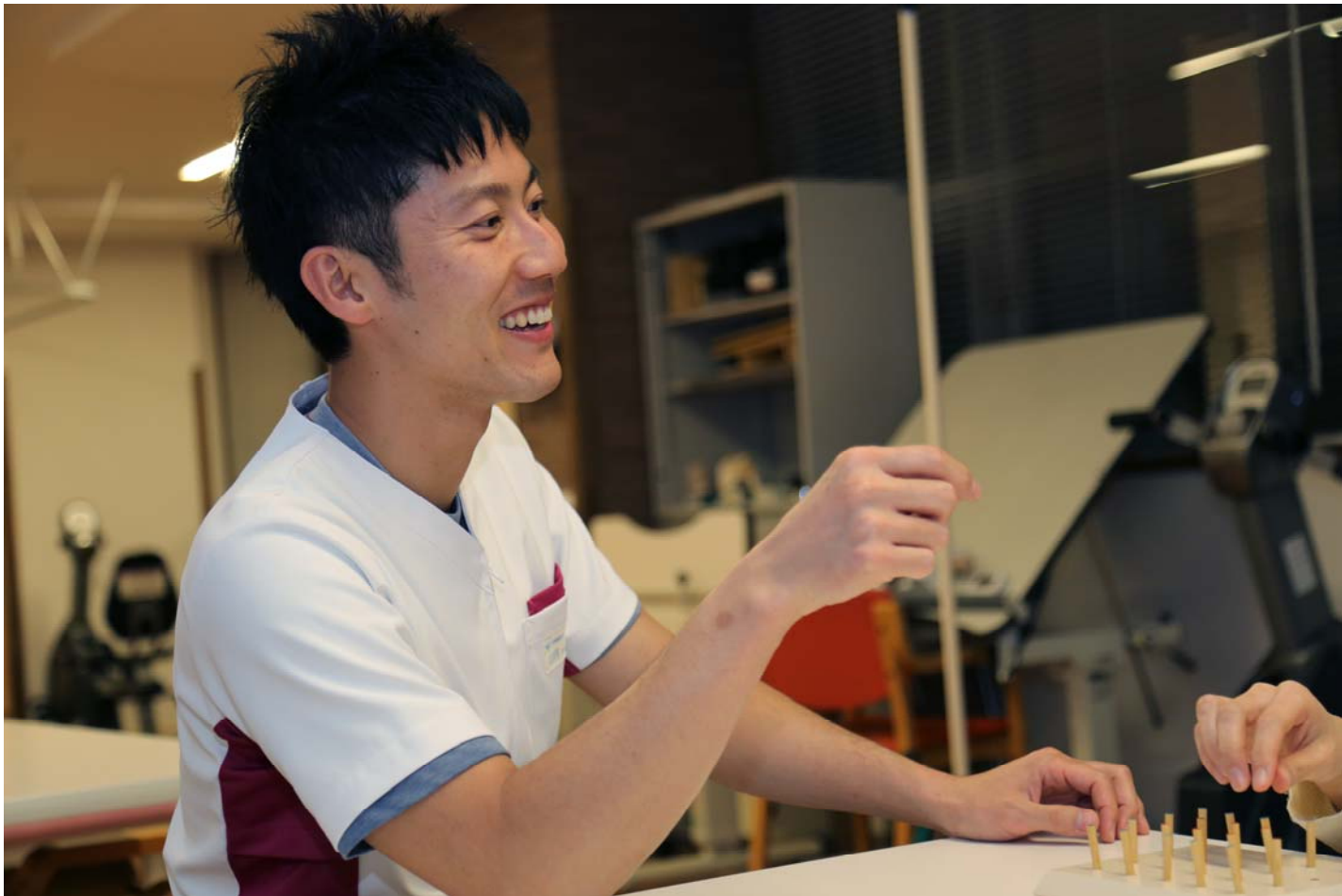
今回は、当院の特色の一つである「回復期リハビ
テーション」や時節の感染症について特集しまし
た。これからも、様々な切り口でご案内していきた
いと思います。ご期待ください。

ChiKaRa

すずかけセントラル病院 広報誌

Vol. 13

特集 回復期リハビリテーション病棟について



CONTENTS

新春のご挨拶
お知らせ・イベント情報

表紙の人 すずかけセントラル病院 リハビリテーション科
作業療法士 山内 悠樹



浜松市南区田尻町120-1

TEL : 053-443-0111 FAX : 053-443-0112

<http://www.suzukake.or.jp>

発行 すずかけセントラル病院 広報委員会

発行日 平成28年1月12日

回復期リハビリテーション

病棟について

リハビリテーションの歴史

1970年代、集中的なりハビリテーション（以下、リハビリ）を受けるためには、生活圏を離れた温泉病院に転院しなければならませんでした。1980年代になると都市部の一般病院でもリハビリが開始されるようになり、1990年代には発症早期からのリハビリの重要性が認められ、急性期のリハビリが開始されるようになりまし。以後、急性期から回復期、維持期へと円滑に流れるリハビリシステムの構築が求められるようになり、2000年、介護保険制度の施行と同時に回復期リハビリテーション病棟（以下、回復期リハビリ病棟）が誕生しました。現在、回復期リハビリ病棟は量的充足の期間を経て、一層の質的向上を目指す時代となりました。

回復期リハビリテーション病棟の役割

回復期リハビリの適応のある患者さんを、急性期病院から早期に受け入れ、集中的なりハビリを実施することにより寝たきり予防、日常生活動作能力の向上を進め、可能な限り在宅復帰を推進する病棟として発足しました。

当院の取り組み

当院は2012年11月に開院し、その1か月後には回復期リハビリ病棟を立ち上げました。2015年6月からはベッド数を60床に増床し、医師1名、

新春のご挨拶

新春のお慶びを申し上げます。

すずかけセントラル病院は、4年目を迎え一歩ずつではありますが、地域の皆様に信頼される病院として、質の高い医療を提供できるよう、地域に密着した病院づくりを目指しております。

病院理念の「すずかけの木陰の優しさ」と「世界一風通しの良い病院」として、病院を利用してくださる全ての皆様のご期待に応えられるよう、職員の人材育成にも力を入れております。急性期での専門的な高度医療の提供、回復期における在宅復帰及び社会復帰を目指し、リハビリスタッフを増員しご利用者自身の力を最大限に引き出せるようサポートします。慢性期では患者さんはもちろん、ご家族にも安心していただける療養環境のなかで、在宅復帰を視野に入れて支援してまいります。また、健康管理センターでは予防医学としての健康管理を中心に、疾病の早期発見から当院での治療へと一貫した医療の提供をさらに強化していきます。

今年度は、専門医がそれぞれの分野で積極的に業務を推進し、地域の診療所の先生方との連携を密にしてい、安心できる質の高い医療を提供できるよう、職員一丸となって努力してまいります。

今後とも引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

院長 鈴木 一也



看護師23名、介護士14名で対応しています。セラピストは理学療法士15名、作業療法士8名、言語聴覚士4名、相談員2名を配置しています。可能な限り早く、在宅復帰出来ることを目指し、図1のように、患者さんを中心とした多職種でのチームアプローチに取り組んでいます。



図1 回復期リハビリ病棟のチームアプローチ

写真は多職種参加のカンファレンスの様子です。速やかに情報共有出来るよう、週2回実施しています。リハビリの負荷量を検討するために全身状態やリスクを把握する、リハビリで出来るようになったことを病棟での生活動作に反映していくけるよう伝達する等、双方向の活発な情報発信の場となっています。

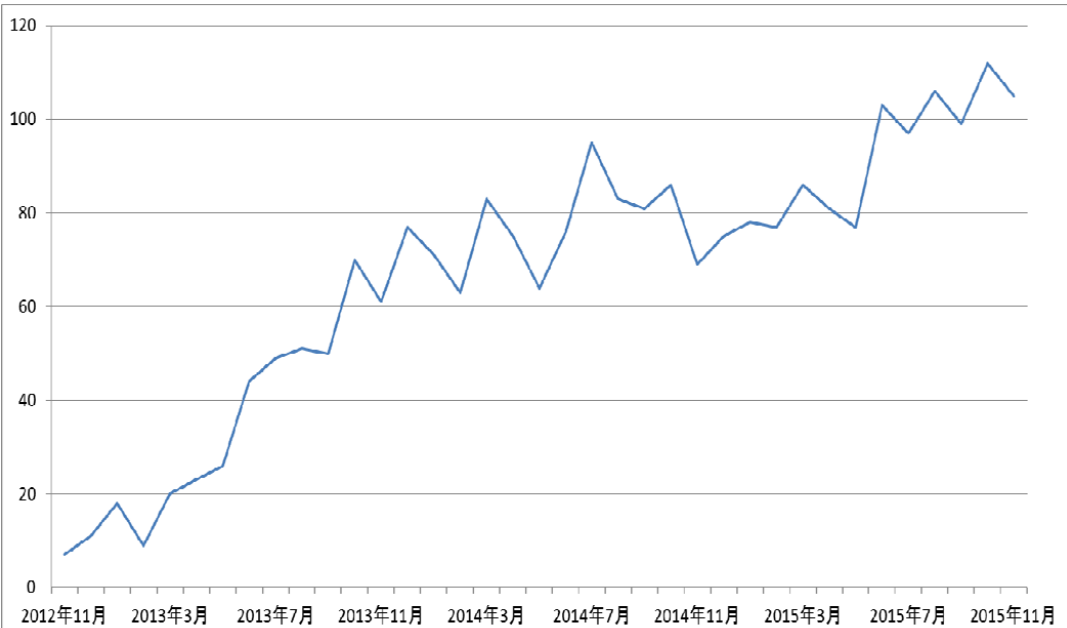


臨床指標公開

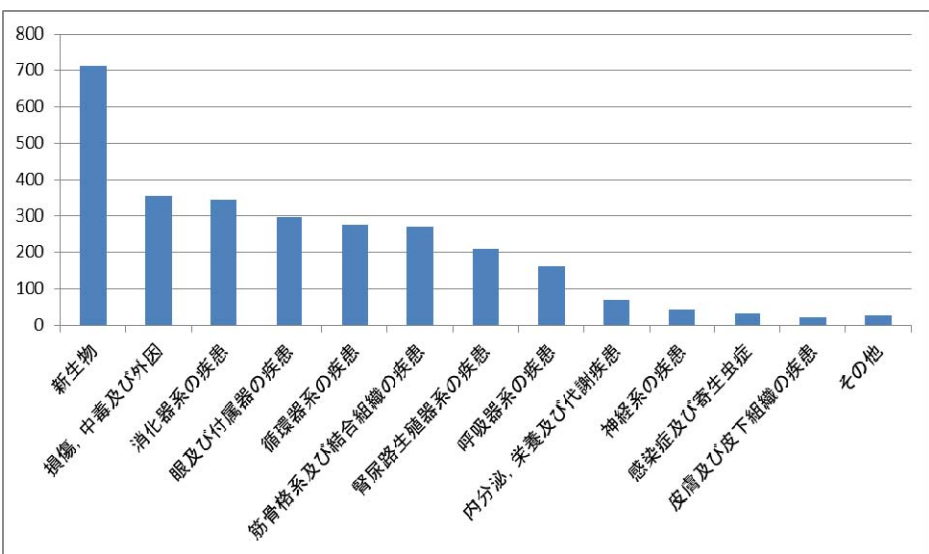
手術件数報告

開院から3年たち、手術実績を順調に伸ばしています。左図のとおり、季節的な変動はありますが、ほぼ右肩上がりの実績となっています。

月間手術件数



疾患別退院患者



・平成26年7月～平成27年11月データ・退院患者のMDC大分類による集計・期間以前からの入院患者は含まない。

新たな取り組み

今後、当院の回復期リハビリ病棟も、在宅復帰に向けた本来の役割を積極的に果たしていくため、より充実したリハビリの提供が出来るよう体制を整えていきます。

その一つとして、一月下旬から日曜日のリハビリ提供を開始します。日曜日は休息日と感じられる患者様も少なくないので、徐々に慣れてもらえるよう始めていきます。四月には新たなスタッフを迎えます。より手厚く人員を配置し、365日のリハビリ提供を充実させていきます。



筆者

泉 千花子

(リハビリテーション科 課長)